

事業所名

ハートライン清水町

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

30 日

法人（事業所）理念		「子どもたちの未来を支え、医療と教育の架け橋に」							
支援方針		児童精神科医や小児科医を中心とした医療の専門家集団として、科学的根拠に基づく保育と療育を提供します。子どもたち一人ひとりの心理や発達特性に寄り添い、心と身体の健やかな成長を支援します。医療的知識と心理学を活用し、愛着形成や感覚統合、言語訓練などの多角的なアプローチを行います。また、保育士、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士と連携し、家庭や学校、地域社会とも協力しながら、全ての子どもたちが安心して成長できる環境を創造します。子どもたちが今だけでなく、10年後、20年後の幸せな人生を歩むための基盤を築きます。そして、地域の保育園や教育機関を支える活動を通じて、全ての子どもがその可能性を最大限に発揮できる社会の実現を目指します。							
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし ※ごく近隣の小学生のみ実施		
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の形成を目指し、「身支度」「食事」「トイレトレーニング」の支援を行います。 視覚的なスケジュール表やルーチン化した活動を用い、子どもたちが安心して日々の生活を送れるようサポートします。 偏食や食事に関する課題については、子どもの発達特性や感覚過敏を考慮し、臨床心理士や医師と相談して支援方法を検討します。また、ご家庭や各児童の通う保育園と連携し、具体的な対策を共有することも可能です。 							
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士と作業療法士と相談して感覚統合療法を取り入れ、体のバランス感覚や手先の器用さを向上させる活動を計画します。 サーキット運動やリズム遊びを通じ、運動機能の発達と情緒の安定を支援します。 運動が苦手な子どもには、視覚や触覚を用いた補助を行い、成功体験を積み重ねられるよう工夫します。 							
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 注意欠如や多動性を持つ子どもには、短時間で集中できる課題を設定し、成功体験を重ねることで自己肯定感を高めます。 視覚的な指示カードやタイマーを活用し、自分で課題を進められる力を育成します。 問題行動が見られる場合は、行動分析を行い、適切な環境調整とスモールステップでの目標達成をサポートします。 							
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の発達が遅れている子どもには、絵カードやジェスチャーを活用し、コミュニケーションの基盤を育てます。 他者とのやり取りを促進するために、ペアや小グループでの活動を計画します。 言語聴覚士による個別の言語訓練を行い、語彙力の向上や会話のキャッチボールを促します。 							
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動を通じて、順番を待つことや、他者の気持ちを理解する力を養います。 社会的ストーリー（Social Stories）を用いて、新しい場面への対応スキルを身につけます。 年齢や発達に応じた遊びや共同作業を通じて、協調性や集団行動への適応を促します。 							
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> 保護者への定期的な面談を通じて、家庭での具体的な対応方法（視覚的サポートやスケジュール管理など）を助言します。 ご家庭の兄弟にも配慮した家庭での役割分担や声かけの方法を提案します。 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> 保育所や学校見学の同行サポートや、教員や保育士への子どもの特長や対応方法に関する情報提供や研修を実施します。 ライフステージの切り替え支援として、子どもの発達段階や家族の希望に応じた中長期の目標設定を行い、それに基づいた計画を作成します。 子どもの将来の生活自立や社会参加に向けた基盤を作るため、生活技能訓練（例：簡単な料理や買い物の練習）を実施。 地域の育ちの場や生活の場への移行支援として、地域の児童館や子育て支援サークルへの参加を推奨し、子どもが地域社会に慣れる機会を提供します。 地域活動（例：公園での遊びイベントや地域清掃）を通じて、社会的スキルの向上を図ります。 		
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> 地域の保育園や学校で巡回指導を行い、療育のノウハウを共有します。 地域の伝統行事への参加等、地域住民との共同活動を企画し、子どもたちが社会とつながる経験を提供します。 他の福祉施設や専門機関との連携を通じて、子どもに適した療育環境を広げていきます。 クリニックに通院中の子どもに関しては、医師や臨床心理士が療育の進行状況や課題を定期的にモニタリングし、デイサービスの職員と情報共有を行います。 発達検査や心理評価の結果を基に、具体的な療育プランの作成や調整を行い、療育の効果を最大化します。 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> 療育の専門性を高めるために、最新の療育手法やケーススタディを中心とした研修を月1回実施します。 療育や発達支援に関連する外部セミナーや学会への参加を推奨します。 他施設との合同研修や情報交換会を通じて、広い視点を養います。 定期的なスキル評価と個別フィードバックを通じて、職員一人ひとりの成長を支援します。 新人職員に対するメンター制度を導入し、現場での即戦力を育成します。 		
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> 節分：豆まきや鬼退治ゲームを通じ、季節の行事を楽しむ。 クリスマス会：プレゼント交換や劇、親子で楽しめるアクティビティを計画。 月ごとの誕生日会：各子どもを祝福し、特別な一日を演出。 季節に合わせたクラフト活動（例：七夕の短冊作り、クリスマスのリース作り）を計画。 							